

きぼうの虹フォトコンテスト特選作品
「道」登坂直紀さん(工学部環境社会工学科)



発行所
北海道大学生協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 三画
- 六画
- 七画

シリーズ「つくる！サステイナブルキャンパス提案プロジェクト」Vol.3
こころの健康を考える④ 震災は精神的な傷がある
博物館へ行こうII 第2回

北海道大学大学院 教育学研究院 渡邊 誠
北海道大学 高橋 英樹
総合博物館

今や健康ブームですが、専門の医師が高度な知識と技術をもって行う医療とは別に、いわゆる民間療法というものがあります。「○○を食べたら認知症が治った」「○○を食べたらガンが消えた」などなど枚挙にいとまがありません。しかし、民間療法の多くは科学的根拠が薄弱で、本当に効果があるのか、きちんと科学的に検証されているものはほとんどありません。ですから、むやみに民間療法を信じるのではなく、医師によるきちんとした診断・治療を受けることが大切であることは言うまでもありません。

同じようなことが、地震予知にも言えます。大学や気象庁などの専門機関が高度な知識と技術をもって行う地震予知研究とは別に、民間の地震予知というものがあります。「地震雲が出たら大地震が近い」「深海魚が網にかかるのは大地震の前兆だ」「東日本大震災を当てた予言者が、○月○日に大地震が来ると言っている」など多数あります。しかし、「地震雲」という名前の雲は気象学的には存在しませんし、普通の雲と「地震雲」をどうやって区別するのか、分かりやすい基準がありません。また、深海魚がとれるのは

今年、東日本大震災が起きて

Opinion!

民間「療法」と民間「地震予知」

北海道大学 地震火山研究観測センター 准教授 勝 俣 啓



海水温や海流の影響であると海洋学者が説明しているのに、どうして地震と結びつける必要があるのでしょうか。また、予言者と称する人は、同じ内容の予言を何度も何度も繰り返し発表し、当たった時だけ「当たった！」と強調する

からです。5年になります。地震の規模を表すマグニチュード(M)は9.0で国内観測史上最大、世界的に見ても、1960年チリ地震(M9.5)、1964年アラスカ地震(M9.2)、2004年スマトラ地震(M9.1)に次ぐ4番目の規模でした。地震災害と言うと「津波」ばかりが強調されがちですが、地震の時に注意しなければいけない点には他にもあります。まず、今年4月に発生した熊本地震でも注目された「山崩れ・がけ崩れ」は、地震の激しい揺れによって山肌や急斜面が一気に崩壊する現象です。「同時多発火災」では地震によって複数の場所から同時に火災が発生します。木造住宅の密集地では消火できずに燃え広がる可能性が高くなります。小さい地震でも揺れが収まったら火の始末をするよう普段から心掛けてください。それから、大災害時は精神的に不安定になるので、普段なら信じないようなデマや噂話を簡単に信用してしまうので注意しましょう。1923年関東大震災では根も葉もないデマによって多くの人が犠牲になりました。



キャンパス放浪記 in 函館…第7回

はなびとはなみ ～カラーだから～

北方生物圏フィールド科学センター 福井 信一

【電話にて (意訳)】

M理事「次回はカラーだからよろしく。」 \(\text{---}\) ☎
\(^ ^) / . . .

毎回メ切が近づくにつれ、引き受けてしまったことに後悔しているものの、しかし…もう7回目にもなるのか…というわけで、【お知らせ】 \(\text{---}\) / 本企画の趣旨 (第1回記事) を理解した上で、掲載してみたい人は、理事会室まで連絡してみてね。連絡先は裏表紙左下にあるよ。 \(\text{---}\) / 【お知らせ 終】

1. 花見 (はなみ) - 花見といえば〇〇〇〇 -

函館市の花見スポットといえば五稜郭公園や函館公園 (図1)、桜ヶ丘通りなど様々です。

函館キャンパスの桜 (図2) は、確かに本数的には少ないのかもしれませんが、種類は皆さんが考える以上に多く、植えられた由来も様々で、歴史もあるようです。

\(* ^ ^) / 教員でもないくせに適当なこと言うんじゃないよ！例えになっているか分からないが、誤った内容の学説が学会内で一旦主流になってしまうと、本流に戻すまでが大変で、場合によっては学会の方向性自体もおかしくなっちゃうよ？学説じゃないけどこの記事も同じこと！有害な言説を後世に残すな！！

(\(\Sigma^*\)) 「種類は皆さんが考える以上に多く、植えられた由来も様々で、歴史もあるようです」だと？そんなの誰でも言えるだろう？こんなページを割くくらいならフォトコンテストに使ってもらったほうがよっぽど公益に資するんじゃないか？アーもう一杯！？

うーん (\(\text{---}\)) …水産学部のホームページには函館キャンパス

に植えられている桜の種類も載っていますし、それに北大時報にも函館キャンパスの桜に関し由来する石碑の除幕式に関する記事があったような…。そういった資料をみてから判断すればいいんじゃないかな？ホームページのどこに載っているのかって？まあ、義務教育じゃないんだからね、興味のある人は調べてみればいいと思うよ？

2. 花火 (はなび)

函館の花火といえば、三大花火大会をあげることができるでしょう。函館に夏が来たことを告げる「函館港花火大会」、その名のとおり「函館港まつり協賛 道新花火大会」、夏の終わりが近づいたことを告げる「湯の川温泉花火大会」。

その他にも、近年では「はこだてクリスマスファンタジー」で打ち上がる花火 (…これは、花火大会とは違うかな？) や、「函館海上冬花火」など、冬に打ちあがる花火もあります。寒い時期に函館山から見る花火 (図3) もまた格別です。是非、見に来て下さいね。…もうひとつ花火の写真を準備しておりました。北海道新幹線開業記念ということで、今年限定イベントかもしれません、「はこだてグルメガーデン」の初日に打ちあがった花火 (図4) です。「はこだてグルメガーデン」は8月31日まで函館駅前で開催中です。皆さん遊びに来て下さいね。それを逃した方は9月10日、11日に「はこだてグルメサーカス」が駅近くのグリーンプラザで…(\(\Sigma^*\)) \(* ^ ^) / ちよつと待て！！なんだこの記事は？函館キャンパスと何の関係がある？お前はどこかの回しものか？

うーん (\(\text{---}\)) …トレルンデス。函館キャンパスから。全てとはいませんが、ミエルンデス。場所さえ間違えなければ…。



図1 函館公園の夜桜



図2 函館キャンパスの桜



図3 函館山からの函館海上冬花火



図4 はこだてグルメガーデン開催記念花火

いじわるじいさん

99歳の義母から伯母の話、話を詳しく聞いたのは、オバマ大統領の広島訪問がきっかけだった。九人姉妹の姉と妹の二人が広島で被爆。姉は爆心地近くの崩れた家の前で乞食のように座っていたという。幼い娘は家の下敷きで死に、娘の声も耳から離れず苦しんだ姉も数日後に死んだ。生き残った妹は戦後被爆を隠し続け、重いリュウマチと癌を病んで死んだ。義母は、他の姉妹が揃って長命なので、あの人は被爆しなかったらまだ生きているはずと嘆く。大統領は広島で、71年前晴天の朝、空から死が降ってきて世界が変わりました (邦訳。毎日新聞) と語った。私は降った物の下で起きたことを知ろうと本棚を探した。原民喜の「夏の花」他を読み直す。黒こげの人。飛び出した目玉を持つ少年、巨大な胴体の死馬：むごい光景が続く。録画のドキュメンタリー番組も見直す。被爆者手帳を持たなかった妹の晩年は苛酷だった。被爆者がどう死に、戦後をどう生きたのか、もつと知らなくては。広島・長崎を考える原点はそこだと思ふと、スピーチ冒頭の、落とした原子爆弾を雨が雪が降ったように言う表現に感じた戸惑いが憤りに変わる。(今日子)

シリーズ「つくるーサステイナブルキャンパス提案プロジェクト」 Vol.3
中央食堂はなぜ「ダメ」なのか①
ー他大学視察でわかったこと



理学院博士2年
本間 真佐人

「つくる提案プロジェクト」の一環として、施設改善が行われた他大学の福利厚生施設を、プロジェクトメンバーが視察に行きました。視察はメンバーを代えて2回行われ、第1回は昨年10/30に東京農工大・東京学芸大学（いずれも小金井キャンパス）、第2回は昨年11/16に東京大学駒場キャンパス及び本郷キャンパスを訪れました。視察の目的は、「施設改善が行われた他大学の福利厚生施設を訪れることで、中央厚生センターの施設改善策を提案する上で参考となる情報を収集する」ことです。第1団に参加した本間さんに報告してもらいます。

本シリーズも第3回となり、鎌田からわたくし本間に、バトンが渡された。視察の経験を通じて、過去の2回でキーワードになっていた「北大らしいキャンパス」や「学生が求める居場所」について、「そうした場所をつくるにはどうしたらいいか」という部分を深めていきたい。

「学生のため」とは？

我ながら物議を醸しそうなタイトルをつけてしまったが、「改善する」と言った時には必ず発せられる問いであろう。この問いが出てくる状況として、2つのパターンが想像できる。「ダメである」という前提があつてその原因を追究しようとしている状況か、「ダメではない」という前提だったのになぜか「改善する」と言われている状況か、である。すなわち、同じ問いを発していたとしても、ダメということが自明な場合と、「青天の霹

靂」的な状況の場合とがある。

昨年中は、本プロジェクトに関連した内容を友人に打ち明ける機会がしばしばあった。その際、「そもそも中央食堂に休まれたら困る」「狭いし、ボロいけど、なんとかなってるじゃん」といったコメントをもらうことがあった。これはまさしく後者のような状況であり、前者は本プロジェクトの背景だったと言える。中央食堂を建て替えることになった場合、もし同じ場所に建物を作るのであれば、飯店舗などを設置したとしても確実に「今の学生」にとつて不便になる。それに、建て替えのメリットを享受できる学生が現在在籍している学生とは限らない。こうしたプロジェクトに関わる我々は、中央食堂の改善が本当に「学生のため」なのかどうか、常に自問自答しなくてはならなかった。

視察で受けた衝撃

関東圏では、学生から直接的に声を集めて施設に反映させるという手法はとらない。個別の大学生協単位ではなく、関東圏全体の大学の施設改善を受け持つ専門職員が配置され、利用者の動向に関わるデータから、利用者のニーズや不満を引き出し、それを元に施設改善案を各大学生協に提案するというスタイルである。視察では、この職務に就いて日々大学を飛び回る職員の方に同行していただき、工事を伴うような改善がなされた施設に訪れ、実物を見ながら改善内容とその背景を紹介していただいた。全ての内容をここで紹介することはできないが、一つ例を出してみよう。たとえば座席数や厨房の広さなどホール全体の各箇所のバランスは、「注文から出食までにかかる時間」「レジに並ぶ時間」「会計にかかる時間」「会計から着席までの時間」などの利用者の動きを細分化し

て計測されたデータや、「料理を作る側の作業効率」と「利用者の収容人数」のバランスなどに基づいて決定されていた。施設見学をする中で、「たとえば直接学生から改善案を募ったとしても、施設設計を考える上で有効な意見が見出されることあまりない。あるいは設計に直接反映させるのが困難」であるという話を聞いた。元々、「学生の力で学生の声を集める」というスローガンで企画を進めてきた我々にとって、これは衝撃的であった。学生からの直接的な意見をましてや学生が集めることに「意味がない」と言われているように感じてしまった。

施設改善の背景を聞けば聞くほど、わざわざ利用者に直接話を聞かずとも、店の裏側や利用者の様子を観察することで、施設のよりよい在り方を導き出すこ

とが可能であるということが思わなかった。そして、段々とワークショップを通して学生に直接的な問いかけを行うことが、果たして本当の意味で「学生のため」になるのだろうかという疑問を抱くようになった。

学生のニーズは、実は学生自身に問いかけることで理解できるものではなく、学生全体の様子をつぶさに観察し続けることによつてしか得られないものなのかもしれない。そう考えると、我々が目指すワークショップはひよつとすると無意味なものに終わってしまうかもしれない。意義のあるワークショップにするためには、どうしたらいいのだろうか。視察第一回は、こうした根本的な問いを抱ききつかけとなっており、我々の企画の1つのターニングポイントであった。



購買前に学生が集まることのできるスペースをつかった結果、購買の売り上げが上昇した（農工大）



混雑時でも利用しやすくするための工夫が詰まっている（学芸大）

大百景2016」審査結果発表!!

今回で4回目となった「きぼうの虹フォトコンテスト」です。テーマは「北大百景2016」としました。6月6日から24日まで(27日まで延長)の応募期間で37点の作品が寄せられましたが、昨年の応募点数を大きく下回ってしまいました。テーマは「何でもあり」だったので、宣伝に問題があったのかと反省しています。しかし、応募作品のクオリティーは高く、各審査員は楽しみながら特選1点、入選5点を厳選いたしました。入選作品はそれぞれの審査員賞とさせていただきます。また、秋には昨年同様全応募作品の展示を予定しています。お楽しみに。応募していただいた皆さん、ありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。

特選

「道」

登坂 直紀 (工学部環境社会工学科)

私の前には道がある。先輩が歩いた道だ。夢と希望を抱く大学生が踏みしめた“道”をポプラは静かに見守る。

●審査員コメント

各審査員の高評価が集中した作品です。風景写真でありながら人物を意図的に配置することによってメッセージを明確にする手法もさることながら、構図や色彩、陰影など、メッセージに負けない撮影技術とセンスが感じられる作品です。北大のシンボルであるポプラ並木は、単なる観光名所ではなく、北大人のアイデンティティーを育む場であることを気づかせてくれます。



学生委員会賞

「夕陽と夕飯」

木澤 駿 (工学部情報エレクトロニクス学科)

夕陽に照らされて夕飯を頬張る牛達。

●審査員コメント

北大で有名な、ポプラ並木と牛が夕焼けの中、1枚の写真に収められています。自然豊かな北大が象徴される写真だと思います。また、遠くに夕陽が沈みかけているので、時間的には夕方、牛が夕飯を食べているようです。そろそろ帰ってご飯の用意をしなくては。



院生委員会賞

「エゾリス」

亀山 武志 (遺伝子病制御研究所)

木の陰からひょっこり顔を出す愛らしいエゾリス。北大の自然の豊かさが分かる。北大研究林にて。

●審査員コメント

初々しいエゾリス。コンクリートと予定に囲まれ、毎日走り回っている院生に癒しをと思い、選出しました。理路整然の研究も良いですが、たまには自然の中に入り、感性に身を委ねてみては。ふと気づくと心を癒され、清々しい気持ちで明日を迎えられるはず。

第4回フォトコンテスト「北

審査員：生協学生委員会、院生委員会、教職員委員会、北大教職員写真同好会、生協理事会室から各1名

*教職員写真同好会の皆さんには、きぼうの虹の表紙写真をはじめ、長い間お世話になっております。この場を借りてお礼申し上げます。

特選および各賞入選者の皆さんには、生協電子マネーチャージを贈呈いたします。



教職員写真同好会賞

「現行犯」

加藤 岳志 (法学部)

自転車へ戻ってくるとそこには彼が。カメラを向けるとちらに気づいたようで、カメラ目線でパシャリ。

●審査員コメント

“北大あるある”の一つの光景ですが、カメラで捉えるのが難しい状況の中、睨んだ表情が上手く撮れています。

ただ構図を丁寧に収めようとしたせいか、撮影者の気持ちが読めないのが惜しいです。自転車に乗っ取られた無念さ、怖さ、腹立たしさ・・・そんな感情を込めて撮影するとより良い作品になったと思います。



教職員委員会賞

「秋のキャンパスを歩く」

井出 礎 (文学部)

10月のある日の写真です。陽の傾く頃キャンパスを歩いていると、幻想的な風景に出会えました。

●審査員コメント

北大の秋の風物詩は銀杏並木ですが、メインストリートを彩る樹々も見事で、夕暮れの木漏れ日とともに幻想的な風景をよく収めた写真です。また、この写真は、工事中の部分に何ができて、この風景がどのように変わるのか、北大の発展と将来の期待を抱かせる記録になることでしょう。



理事会室賞

「繭玉職人」

大場 諒平 (北方生物圏フィールド科学センター)

糸を出す蚕と飼育する技術職員、それぞれの職人の力が合わさってはじめて綺麗な形の繭玉ができるのです。

●審査員コメント

「繭玉」は蚕がつくります。蚕は卵から孵化して桑の葉を食べて育つ事が出来、その蚕が育つためには、卵から大切に大切に育てる人、世話をしている人がいてこそ。繭玉は、それに関わっている多くの人、北大で研究する人たちがいて初めてできる、一つの奇跡。何気ないワンシーンですが、繭玉と人を一緒に収め、人がいるからこそその北大なのだと思わせる一枚です。

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

渡邊 誠



中学生か高校生の頃、古文の授業で古典を読んでいるときに、恋焦がれるあまりはかなくなりぬ（死んでしまった）、といった話が出てきて、「恋で死ぬのか！」と、驚いたことをおぼえています。もしかすると、同じような経験をした方は、結構いらつしやるのではありませんか。そして、もつとずっと大人になってから知ったところでは、西洋でも十九世紀頃までの医学教科書には、恋愛病なる記載があった、と。……曰く、片思いに悩む男女に見られ、徐々にやつれて愛する相手と一緒に限らない限り死んだ、しかも愛する相手の名を秘めたままのことが少なくなかった……（エレンベルガー『無意識の発見』から）。恋には、こころの健康どころか、私たちの存在そのものにかかわる、根源的な面があるのでしょうか。

とはいえ現実の恋は様々なだろうと思います。青年期精神医学の大家が、こんなことを話されています。しばらく前までは、初めての性体験は、大人になるための一つの関門として機能していた、しかし現在では、性体験自体が非常にお手軽なものとなり、その役割は失われた、と。

しかし、だからといって、恋や愛や性の持つ、根源的で、時にはまがまがしく破壊的と言えいえるような力が、現代において失われたといっているものなのかどうか。私は、とても疑問に思います。シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を読むと、すべての愛は狂気の愛である、と言いたい気持ちにかられます。信仰に狂信というものがあるように、愛にも狂気の愛がある、それは今も生きてい

る、と。かつては悲恋であったものの、現代におけるひどく不幸な形の一つが、ストーリー



カー行為なのかもしれません。日常生活に馴染みやすい、生産と創造の源としてのエロスというものは別の面が、愛にはあるのだと思います。愛には壊滅的な顔がある。その行き着く先は、死の安寧でしょうか。ロミオとジュリエットの死が、悲恋の極限であるにもかかわらず、どこか安らかなものであると思えるように。

部分だけを経験しながら生きていくように見えます。でも、その下には、愛の持つもう一つの顔が、

今も変わらず脈打っているのではないのでしょうか。狂信の問題は、カルトやテロリズムと

人が結婚するという「皆婚社会」も、終わってゆくのかもしれません。もともと、私たちの多くは、愛の生産的で創造的な、いつてみれば表向き

北大ミュージアムショップ リニューアルオープン!

北大生協は、学内に2つある北海道大学ショップ（エルムの森&ミュージアム）の運営をまかされています。長らく工事で閉館していた北大総合博物館のリニューアルオープンと同時に、ミュージアムショップも7月26日にリニューアルオープンしました！

単なるお土産ショップではなく、博物館を訪れたみなさんにとって、「学び喜び」や「感動体験」の記念になるような商品も置くようにしています。

新しくなったミュージアムショップをご覧ください。

営業時間… 10時から17時

営業日…（土日祝営業、平日月曜閉店）


※博物館閉館日がショップ閉店日になります

【追伸】北海道大学総合博物館では、8月5日（金）から9月25日（日）までリニューアルオープン企画展示として「ランの王国」が開催されます。ぜひ、足をお運びください。

リニューアルオープン記念展示
「ランの王国」展 開催

2016年8月5日（金）～9月25日（日）

ラン科は陸上植物の3大科の一つとされ、2万種にも及ぶ種多様性を誇っています。ラン科の特徴、多様性と分類体系、人間文化との関わり、花と昆虫との共進化、生物間相互作用などを分かりやすく説明します。



パフィオペディルム *Paphiopedilum*

博物館へ 行こうII

第2回

総合博物館企画展示 「ランの王国」

北海道大学総合博物館 教授 高橋 英樹



7月26日にリニューアルオープンした北大総合博物館ですが、引き続き8月5日〜9月25日の予定で企画展示「ランの王国」を開催します。
北大総合博物館で開催される大きな企画展示は、毎年夏と秋の2回行われるのが通例ですが、一見動きのない「植物」は夏の企画展示としてはなかなか取り上げにくい題材です。人間が生活する時間スケールでは、植物のしたたかな生きざまを理解するのが直感的に難しいのがその原因の一つではないでしょうか。

陸上植物においてもっとも成功？して多くの種数を誇るのがキク科、ラン科、マメ科の三大科といわれるのですが、この中でラン科は虫を騙したり菌類と協力したり利用したりして、たたかに生き抜いてきた植物群です。人間文化との相性もよく、多くの人がその花姿を愛し、巨大な園芸植物市場の一角を占めています。一方負の側面として、多くのラン科野生種は人間により乱獲・盗掘され、絶滅危惧種・希少種となっています。

以下、展示の概要を紹介しましょう。
(1) 蘭と人
ランを「国花」とする国は多数あります。シンガポールのバングラ、インドネシアのコチヨウラン、ブラジルやコロンビアのカトレアなど、枚挙に暇がありません。そして毎年日本のどこかでは必ずランの展示会が開かれています。東京ドームで毎年2月に開催される「世界らん展」に行かれた方もいるのではないのでしょうか。そこではおよそ10万株のランが展示されているそうです。ランの豪華な図譜や写真集、アイヌの人たちが利用したラン科植物、日本人による蘭栽培の趣味や漢方薬、ランの花の香りや香辛料について紹介します。

(2) ラン科植物とは
ラン科植物の現代的分類体系を紹介します。そして花の基本構造、雄しべの数を減らして雌しべと合着し・形成した特殊な「ずい柱」という器官。花粉同士がくっつき合って形成する「花粉塊」、極めて小型の「微粉種子」などラン科に特徴的な形態形質を解説します。そしてラン科の花がその形・色・香りです。

(3) 世界のラン・日本のラン
西オーストラリアでみられるさまざまなラン科植物の例を現地のダイクソン博士の協力をえて紹介します。同様に中国南部の黄龍溪谷のラン多様性についても中国のルオ・イボ博士の協力を得て紹介します。黄龍溪谷における多数のアツモリソウ属植物の景観は見事です。北海道の野生ラン全種リストとその中の目立った種の植物画も展示します。

保存活動の紹介。特に小笠原諸島と礼文島でのラン保全活動については展示とともに、現地専門家をお呼びして展示期間中にセミナーを開催する予定です。これにあわせて小笠原と礼文のゆるキャラ、「めぐろん」と「あつもん」が博物館に出現する予定です。

(4) 日本のラン保全
日本のレッドデータブック中でラン科植物がどのように評価されているのか。また日本各地の温室や植物園でのランの系統

総合博物館で開催される「ランの王国」展示。今回は、ランの「植物画」と花の「香り」をアクセントにした展示を試みます。この展示を見ればラン科への植物学入門を果たすこともできます。館内のショップでランの展示図録や植物画集をお土産に買うもよし、新しく開かれるカフェでバナアイスを食べるもよし。貴方もランの花に騙されて、総合博物館に立ち寄ってはいかがですか。

*タイトル内写真「スパイダー・オーキッド *Catadenia* sp.」



ツチアケビ (船迫吉江画)



ホテアツモリソウ (船迫吉江画)

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■第1回学生総代会議

7月5日に第1回学生総代会議を北部食堂にて開催しました。総代の方に総代としての役割を認識してもらい、また、総代としてのやりがいを感じてもらったことを目的としています。今年度の学生総代会議は、参加してもらいやすいように総代のつどいという柔らかい名前に変更しました。また、総代の方にポップパンの新商品を選定してもらった企画や、総代の方の意見から購入に棚をつくる企画も行いました。今年度は、10月と12月にも開催予定ですので、ぜひご参加ください。

■自転車無料点検

7月13日・14日に第2体育館前で自転車無料点検企画を行いました。学生生活110番を扱っているJBRさんと協力して点検したほか、自転車マナーについての呼びかけや、共済・保険の紹介も行いました。自転車点検を通して、自転車事故の軽減につながったと思います。また、北大生の自転車マナーに関するはこれからは様々な取り組みをしていきます。



学生委員会公式HP、Twitter
<http://hokudai.seikyone.jp/>
[@HU_COOP_GI_CS](https://twitter.com/HU_COOP_GI_CS)

学生委員会の活動や学生委員の日頃の様子など、学生委員会のことについて詳しく知りたい方は、公式HP（Twitterを）ご覧ください。

■学生委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp
学生委員会に意見・質問のある方は、こちらのメールアドレスにご連絡ください。

院生委員会

■院生交流ジンパ2016を開催しました！

院生による院生のためのジンギスカンパーティーを、今年も開催しました！

当日は気持ちのいい青空の下、院生21名と生協職員3名合わせて24名が参加して北海道の風物詩であるジンギスカンを囲んで交流しました。幅広い研究科、職員の方たちと交流することによって新たな知見、交友関係を得ることができたと感じます。二次会には18名の方が参加し、お酒を交えて研究や院生生活、野望の話と大いに盛り上がりました。こうしたイベントを通じて研究室から飛び出し、色々な価値観を交えていくことが豊かな院生生活を形成していくことにつながると感じました。



当日のジンパ会場の様子

■院生委員会連絡先

<http://www.hokudai.seikyone.jp/insei/>
Email: hokudai_insei@coop.hokudai.ac.jp
院生委員会からのイベント等の案内を受け取れるML登録を希望される方もこちらのメールアドレスにご連絡下さい。

留学生委員会

■さくらんぼ食べ放題&小樽運河散策バスツアー開催！

朝から日差しが照りつける夏となった7月23日（土）、9カ国49人の組合員とその家族（赤ちゃん含む）の参加で、とてもインターナショナルな雰囲気でした。道路渋滞はありましたが予定は少し遅れただけで農園に到着。今年は生育が早く鈴なり状態ではありませんが、大粒に熟した甘くジューシーなさくらんぼを大人も子どもも手を伸ばしてもぎ取りながらニコニコ顔で頬張っていました。ブルーベリーなども自由に摘みながら楽しめ、自分で収穫したさくらんぼや店頭に並んだ新鮮な野菜を購入していました。

約2時間自由散策の小樽運河では、七味七段の大きなソフトクリームを食べたり洋服にしみがついたのを発見し笑っている女性や好物の蟹の丼を食べて満足した人もいたり、北海道の夏を満喫していただけという声も聞きました。「またお願いします」「どうもありがとうございます」と声をかけられました。



■自転車無料点検 初対応

7月13日・14日の学生委員会企画の当日運営に参加させてもらい、初めて受け入れてもらった留学生参加者への通訳や受付を担当して参加者に大変喜ばれました。

教職員委員会

■教職員総代会議・学内7ヶ所で開催して開催しています

8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様に利用者の立場から色々なご意見をうかがっています。

6月は14日・16日、7月は12日・14日に開催しました。

■教職員委員会・毎月1回、18時～19時半に開催しています。総代会議で上がった組合員の声についての検討、さぼうの虹の編集・発行について討議しています。

6月は16日、7月は19日に開催しました。

■「さぼうの虹」：この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。

今号はフォトコンテスト入選作品掲載号のため、フルカラー印刷です。シリーズ「総合博物館に行こう」も、リニューアルオープン後の記事となるため、実際に見に行つて確認することもできます。

【編集後記】

さぼうの虹365号をお届けします。

フォトコンテストも無事、終了しました。応募数が昨年を下回ったのが残念な結果です。企画に飽きたら残ったか、宣伝に問題があるのか、来年に向けての課題となりました。

7月下旬になるとこの気温が上がり、「夏」を感じません。今号が届く頃にはおいしいビールが飲めるでしょうか。